診療の質

日本小児科学会雑誌　110巻12号　1624～1631（2006年）

総　説

急性脳症に対するステロイドパルスと脳低温と血液透析濾過による３者併用療法の有用性

長野県立こども病院救急・集中治療科

平井　克樹　川崎　達也　植田　育也
水城　直人　小林　宏伸　隅　達則
笠井　正志　新津　健裕　宮坂　惠子

要　旨

小児の急性脳炎・脳症は予後不良な疾患であるにも関わらず，確固たる治療法はなく，死亡や重度後遺症を残す症例が後を絶たない．当院では2004年1月より重症の急性脳炎・脳症に対し，徹底した全身管理を基本とした上で，ステロイドパルス療法，脳低温療法，持続血液透析濾過療法の3者併用療法を施行している．今回この治療法の有用性を検討した．2004年1月から2005年8月までに急性脳症の5症例に3者併用療法を行った．治療成績の比較のため，当院の過去の入院病歴から入院時の年齢，重症度，予測死亡率に有意差のない急性脳症5症例を抽出し，対照群として比較検討した．入院6カ月後の予後（3者併用群/対照群）は，死亡0/0例，重度後遺症（超重症児0/2例，準超重症児　0/1例，重症児2/2例），中等度後遺症0/0例，軽度後遺症～軽快3/0例で3者併用群に有意な予後の改善を認めた（P<0.05）．3者併用群の平均入院日数は約50日，平均総医療費は約360万円であった．対照群と比較して，平均入院日数で約260日短縮（P<0.05）と有意差があり，平均総医療費でも約670万円の削減がみられた．3者併用療法は急性脳症の予後，入院期間を有意に改善し，総医療費も大幅に削減できる可能性がある．持続血液透析濾過療法や徹底した全身管理がこれらの結果に寄与した可能性が示唆された．

キーワード：急性脳炎・脳症，ステロイドパルス療法，脳低温療法，持続血液透析濾過療法，サイトカイン

日本小児科学会雑誌　110巻12号 2006